

(別添 4)

【埼玉県三郷市】 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末をはじめとする I C T 環境によって実現を目指す学びの姿

◎目指す学びの姿：一人一人の子供が主語となる学び（誰一人取り残さない教育）

【児童・生徒の視点】

○全ての子供たちが「確かな学力」「予測困難な時代を生き抜く力」を身につける。

- ・ 本時の課題（問題）解決に必要な学び方を考え、選択し、I C T を効果的に活用しながら、課題解決・学習調整を行い、確かな学力を身につける。
- ・ 多様な他者と協働し、新たな価値を創造する力を身につけ、予測困難な時代を生き抜く力を身につける。

【教職員の視点】

○「本気の教育が子供を変える」を合言葉に、

「全ての子供たちの可能性を引き出す教育」「令和の日本型学校教育」を推進する。

- ・ 複線型授業を展開し、I C T を効果的に活用することで子供たちの学びを支援する。
- ・ 1 人 1 台端末を活用することで、より一層子供たちの学習活動を豊かにし、誰一人取り残さない教育、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。
- ・ 子供たちのよき理解者、伴走者として、学習状況のモニタリングや子供たちが安心して学校生活を送ることができるようアンケート調査等を実施して、児童・生徒理解を深め、子供たち一人一人に応じて適切な支援を行う。

2. G I G A 第 1 期の総括

本市は、臨時休業等のコロナ禍以前から、校務用 P C や校務支援システム、コンピュータ教室、指導者用デジタル教科書・教材、学習者用タブレット端末等、I C T 環境の整備・充実に取り組んできた。国の G I G A スクール構想を踏まえ、令和 2 年度末、全ての児童・生徒に 1 人 1 台端末を整備し、各校で活用している。

また、令和 3 年度から、市内教職員の I C T 活用力・指導力の向上を図るため、教員研修組織「G I G A 3 プロジェクト」を立ち上げ、授業での効果的な活用法について学びを深めている。また、タブレット端末の持ち帰りルールや W i - F i モバイルルータを整備し、家庭においてもタブレット端末を活用してきた。さらに、I C T 活用を促進する学習環境を整えるため、ネットワークアセスメントを実施し、その結果を踏まえ、市内全校でネットワーク環境の改善を実施した。

加えて、授業において、児童・生徒が自分の考えを表現し、級友と即時に考えを共有する授業支援ソフトや一人一人の習熟度・理解度にあわせて学ぶことができるＡＩ機能搭載のデジタルドリルを利用するなど、多様なデジタルコンテンツを導入し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進してきた。

欠席が続いたり、教育相談室に通室したりする児童・生徒や感染症等による学級閉鎖、出席停止時においても、学びを保障するために、クラウドサービス・ウェブ会議システムを活用したオンライン学習を充実させている。

これらの取組の結果、児童・生徒にとって、タブレット端末が「文房具」として定着してきていることが伺える。

3. １人１台端末の利活用方策

タブレット端末の更新（予備機を含む）を適切に行い、１人１台端末の環境を維持・継続することを前提に、以下のように利活用していく。

（１）１人１台端末の積極的・効果的活用

【児童・生徒の視点】

授業において、自分の考えを表現し、級友と即時に考えを共有する授業支援ソフトや一人一人の習熟度・理解度にあわせて学ぶことができるＡＩ機能搭載のデジタルドリルの利用を一層推進する。

全体場で発表することが苦手な児童・生徒も、タブレット上で自分の考えを表現したり、級友と直に対話をしなくても自席にしながら他者の考えに触れたりすることで、新たな視点を得て、自分の考えの共通点・相違点を考え、学びの深化を図る。

また、タブレット端末の家庭への持ち帰りを日常化し、各種支援ツールを学校だけでなく家庭でも活用することで、学習機会を充実させ、確かな学力を身につける。

【教職員の視点】

市教育委員会主催の教職員研修を充実させることで、市内教職員のＩＣＴ活用力・指導力を向上させる。授業においてＩＣＴを積極的・効果的に活用し、複線型の学びを推進する中で、子供たちに確かな学力を身につけていく。

先述の教員研修組織「ＧＩＧＡ３プロジェクト」の他、希望する教職員が受講できるオンライン研修「三郷市アクティブ研修会」を計画的に実施し、ＩＣＴ教育に造詣が深い専門的知識・技能を有する「ＩＣＴサポーター（支援員）」を各校に配置することで、市内教職員のＩＣＴ活用、授業実践を支援する。

また、市内教職員が作成し、授業で活用したデジタル教材を共有する「デジタル教材共有バンク」をクラウド上に設置し、授業実践事例等の蓄積・情報共有を行う。１人１台端末を効果的に活用し、子供たちの学習の個性化を図ることで、学力を向上させる。

(2) 一人一人の子供が主語となる学び、誰一人取り残さない教育

【児童・生徒の視点】

本時の課題を解決するために必要な学びを、子供たち自身が考え、選択し、多様な他者と協働しながら学びを深めていく。一人一人が自分の考えを表現し、まとめ、発表したり、調べ学習を行ったりすることで、多様な考えに触れ、多面的・多角的な視点で物事を捉え、学びを広げていく。学びを進める中で、必要に応じて学びを自己調整し、自ら進んで学ぶことで、確かな学力や予測困難な時代を生き抜く力を身につける。

【教職員の視点】

子供たちの実態を把握し、教材に対する理解を深めることで、ＩＣＴを効果的に活用し、子供を中心とした授業づくりを行う。これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる。

ＩＣＴをこれまで以上に活用し、不登校、特別な支援を要する児童・生徒及び外国人児童・生徒への適切な支援、希望する児童・生徒への教育相談等を充実させる。心の健康観察等も行い、子供たちに対する理解を深める。一人一人の特性、習熟度・理解度を的確に把握し、個に応じた支援をすることで、誰一人取り残さない教育を推進する。

(3) 「学びの保障」を丁寧に行う

タブレット端末を活用することで、教職員と子供たちがつながり、子供たち同士も場所を越えてつながることができる。

不登校傾向、別室登校、教育相談室や校内スペシャルサポートルームに通室する子供たち、感染症等による学級閉鎖・出席停止の子供たちがいる。どのような環境下においても、全ての子供たちの学びを保障するために、クラウドサービス・ウェブ会議システムを活用したオンライン学習を、一層充実させていく。

教職員がＩＣＴを効果的に活用することで、子供たちの学びの可能性が広がり、学習環境の充実が図られる。これまで以上に、個に応じた指導を行い、一人一人に適した支援を行うことで、本市の目指す学びの姿「一人一人の子供が主語となる学び（誰一人取り残さない教育）」を実現する。